

自立支援法に代わる法を

京都で障害者ら行進

障害者自立支援法廃止後の新しい障害者法の制定にむけて、当事者や国民の願いを反映させようとアピールする行動が2日、全国に

行われ、約1000人が参加しました。

主催は、「障害者自立支援法に異議あり！」

応益負担に反対する実行委員会」です。

8月末に内閣府を事務局とする「障がい者制度改革推進会議総合福祉部会」が取りまとめた骨格提言を新法づくりに生かす世論と運動を広げるため、市役所前での演説会の後、円山公園まで行進しま

した。

演説会で、きょうさ

れん京都支部の粟津浩一支部長が発言し、提言は、国連の障害者権利条約と、障害者自立支援法違憲訴訟の原告が国と結んだ「応益負担の廃止」などの合意が指針となっていることを指摘。提言がのべ

る▽障害のない市民との平等と公平▽格差の是正▽本人のニーズに合った支援サービス▽安定した予算の確保などを新法に実現させるため「一致団結して取り組みたい」と強調しました。

当時者や弁護士が、願いや運動の課題について発言したほか、日本共産党の殿田恵二国会対策委員長・衆院議員が、憲法を生かす新法づくりに共にかんばる決意を述べました。

新しい障害者法への願いをアピールしながら行進する参加者＝2日、京都市



新しい障害者法への願いをアピールしながら行進する参加者＝2日、京都市